

カラフル

— 中国・明清工芸の精華 —



Colorful

Chinese Ming and Qing Dynasty Decorative Arts

2014年 5月31日(土) ~ 7月13日(日) 休館日 毎週月曜日

根津美術館では、コレクション展「カラフル—中国・明清工芸の精華—」を開催いたします。

当館の明清工芸品のコレクションは、初代根津嘉一郎が蒐集した茶道具、赤絵、古染付、堆朱などの茶道具にはじまり、その後、鑑賞陶磁としての官窯製品が加わり、さらに国内屈指の中国漆器の「永田コレクション」が寄贈され、質量ともに充実したものとなりました。

明時代の工芸品は、日本では室町時代より珍重されてきました。室町幕府には、明の宮廷から彫漆器や金襴や緞子などの絹織物が贈られ、特に絹織物は後に「名物裂」として茶道具の袋などにも用いられるようになります。陶磁器では、古染付や祥瑞など民窯のうつわが茶道具や高級な食器として長く愛されています。また、清の工芸品は、20世紀初頭からの世界的な流行の中で、観賞を目的として蒐集されました。

明時代から清時代は、技術が高度に発達し、きわめて色彩ゆたかな工芸品を生みだした時期でもあり、華やかな工芸品は、日本人を魅了し続けてきました。本展では、明時代の白地にコバルトの青の対比があざやかな染付や五彩の陶磁器にはじまり、朱や黄色の彫漆や螺鈿の漆器、豪華な金襴の織物、清時代の粉彩や単色釉の陶磁器にいたるまで、当館のコレクションから色とりどりの名品約80点を一堂に公開いたします。

根津美術館
NEZUMUSEUM



カラフル



重要文化財
青花花卉文大皿
景德鎮窯 1枚
中国・明時代
15世紀
根津美術館蔵

大型の皿は、元時代から盛んに作られた。この皿は、明時代初期の永楽期(1403~25)に景德鎮窯で宮廷用に作られたとされる。中央に花卉文を大きく、のびやかに描いている。その精緻な筆使いと濃淡を加えた青料による描写は、絵画的構成である。

堆朱牡丹文盆
「大明永楽年製」銘 1枚
中国・明時代
永楽年間(1403-25)
根津美術館蔵



大輪の牡丹の花を配した盆。上質の朱漆をふんだんに使った厚い漆層から、文様を大胆かつ立体的に彫りだしている。底裏に刻まれた銘から、宮廷向けに作られた品と知られる。このような堆朱は、永楽帝からの贈答品として室町幕府に贈られた記録がある。



瑠璃地白花木蓮文皿
「大清雍正年製」銘
景德鎮窯 1枚
中国・清時代
雍正年間(1723-35)
根津美術館蔵

華やかな瑠璃釉に白い花文様が映える皿である。瑠璃地白花文の作品は、元時代にはすでに見られ、明時代には宣徳期の官窯でも作られている。この皿は、おそらく宣徳官窯を倣って作られたものだが、繊細さとともに、どこか玲瓏な雰囲気を持つ作品となっている。

填漆龍文盆
1枚
中国・明時代
万曆23年(1595)
永田牧子氏寄贈
根津美術館蔵

盆の中央に五爪の龍が大きく身をくねらせる。填漆のなかでも、本作のように地文を針の先のような尖った刀で、点描であらわした例は、貴重である。



豆彩龍鳳文皿
景德鎮窯 1枚
中国・清時代
雍正年間(1723-35)
根津美術館蔵

雍正官窯の優品。見込みに龍と鳳凰を対峙させ、内側面に「壽」の字と唐草文を描きつめる。文様の輪郭を染付で描いて本焼きしたのち上絵具で彩色して焼き付ける豆彩という技法で作られる。

呉州赤絵麒麟文皿
漳州窯系 1枚
中国・明時代
16-17世紀
根津美術館蔵

皿の見込みに蹲踞した麒麟を描く。皿の内側全体に勢いのよい筆使いで花文や斜め格子文、赤玉文がぎっしりと描かれている。この賑やかさが中国南部の民窯、呉州赤絵の特徴でもあろう。



桐唐草文を織り出した華やかな金襴きぬた。砧青磁の名品「青磁筒花生 銘 大内筒」を納める袋に仕立てられたこの裂地きれじは、明との勘合貿易にかかわった所持者の大内氏にちなみ、「大内桐金襴」と呼ばれ、いわゆる「名物裂」として名高い。

おおうちきりきんらんしふく
左：大内桐金襴仕覆
1個
中国・明時代
16世紀
根津美術館蔵

(右：重要文化財 青磁筒花生
銘 大内筒 龍泉窯 1口
中国・南宋時代 13世紀
根津美術館蔵)



同時開催

展示室 2・5

明清の絵画

奔放な水墨による山水画、濃密な画風を示す人物画、華麗な彩色を誇る花鳥画。「カラフル」展の工芸品と同時代の多彩な絵画表現をご覧ください。



がません にんず
蝦蟇仙人図
趙麒筆 1幅
中国・明時代
16-17世紀
根津美術館蔵

透ける衣の精巧な描写や蝦蟇の生々しい表現、文様化した波濤などが見所である。筆者の趙麒は、明時代後半の画院画家と考えられる。



ほうほくそうじんきりほうおうず
倣北宋人桐鳳凰図
沈南蘋筆 1幅
中国・清時代
18世紀
根津美術館蔵

来日して、写生的な花鳥画を伝えた沈南蘋の作。天子の樹である桐と百鳥の王・鳳凰を主に、鶴や鴛鴦などの瑞鳥を添える。

展示室 6

鳴神月の茶

陰暦の六月は、雨期で雷が多いため鳴神月と呼ばれます。茶碗のしみを雨漏りに見立てた雨漏茶碗や、手桶形の水指など、梅雨の季節を楽しむ茶道具約20点を取合せます。



あめゆうておけみずさし
飴釉手桶水指
丹波 1口
日本・江戸時代
17世紀
根津美術館蔵

桐たがの上下に箍をはめた木製の手桶をかたどっている。全体に掛けられた飴釉と呼ばれる褐色の釉が一樣に流れて景色となる。堂々とした作風で、丹波焼たんばやきの優品として知られる。



あまもりちやわん
雨漏茶碗
銘 優曇華
高麗茶碗 1口
朝鮮・朝鮮時代
16世紀
根津美術館蔵

雨漏茶碗は、茶碗にできたしみを土壁に浸み出た雨漏りに見立てたもの。優曇華は、三千年に一度咲くとされる想像上の花。この銘は、茶碗の景色が珍しいことから付けられた。

関連プログラム

講演会 1

「明から清時代の漆工芸について」
日時 6月21日(土) 午後2時-3時30分
講師 多比羅菜美子(当館学芸員)

講演会 2

「明から清へー日本人の注文したやきものー」
日時 6月28日(土) 午後2時-3時30分
講師 西田宏子(当館副館長)

*会場はいずれも根津美術館講堂(定員130名)

【申し込み方法】 往復葉書に、参加を希望される催事名(「講演会1」または「講演会2」と住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「カラフル」展講演会係宛にお申込みください。

*「講演会1」は6月7日(土)、「講演会2」は6月14日(土) 締切(当日消印有効)

*参加希望者1名1催事につき、1枚の往復葉書でお申込みください。

ギャラリートーク

日時 6月6日(金)、6月27日(金) いずれも午前11時00分から約45分間
場所 展示室1

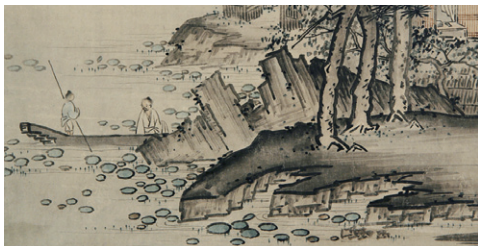
*事前申し込みは不要。午前10時より美術館受付にて整理券(お一人につき1枚)を配布いたします。ご希望の方はお申し出ください。(先着35名) 開始10分前に、整理券をお持ちのうえ、ホール階段下へお集まりください。

*講演会・ギャラリートークとも聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

開催概要

- 【展覧会名】 コレクション展「カラフルー中国・明清工芸の精華ー」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2014年5月31日(土)～7月13日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日
- 【入館料】 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
*2014年4月19日(土)～5月18日(日)「燕子花図と藤花図」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536(代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展のご案内



コレクション展

りょうふうけんじょう
涼風献上

2014年 7月26日(土)～9月7日(日)

絵画や陶磁器を中心に、水辺の景や風の表現がみられる作品を展示し、涼を演出します。
重要美術品 周茂叔愛蓮図 伝小栗宗湛筆 日本・室町時代 15世紀 根津美術館蔵

【リリース・広報のお問い合わせ】

担当: 所、村岡、羽田 TEL:03-3400-2538(直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp